

館報 はた

スージーちゃん スイカ7くん

平成26年5月1日現在

世帯数	5,830戸
人口	15,649人
男	7,597人
女	8,052人

「波田まちづくり協議会」

発足にあたって

平成22年松本市と合併しました。その後支所機能の見直しにより機能縮小が示されました。今までの行政依存型から脱却していかないと地域活動の行き詰まりや活力が失われてしまうこと等が懸念され始めました。平成24年の町会連合会内の「まちづくり協議会」のあり方委員会」で検討を始めました。その結論は、「地域課題や今後のまちづくりを進めるためには、主体と成り得る住民組織が必要である」と結論づけました。12月には、地区17団体をもって「波田まちづくり協議会準備会（仮称）」が発足しました。

備会等を重ねて足掛け3年、ようやくここに6月設立発足の運びとなりました。目指す目的は、生き生きと輝くまちづくりの実現に向けて、拓かれた「新たなまちづくり」を創造し、地域の多様な課題を一人ひとりが考え、主体性と連体感を持って課題解決に取り組むものとします。住民相互の連体感を醸成し絆を深め、波田地区にふさわしいまちづくりの実現を目指すものです。

ここに結集した全ての団体・組織・住民の公算を持って「波田まちづくり協議会」を組織します。協議会が連携・協力して事業が推進できるような活動しては反省し、改善を繰り返して機能的な組織へと削り上げていきます。

さて、まちづくり協議会ではどんな事業をするのでしょうか？その1つ目は、今各町会等団体が実施している事業への応援です。今ある活動を大事にし、役員の負担にならないよう膨らめ、参加者が増えるようにしていきます。そ

の2つ目は、地区内にある団体間との情報交換や連絡・調整を行います。3つ目は地区全体を対象とした新たな事業が必要になった場合は、「まちづくり協議会」が主体となつて事業を進めていきます。

住民の皆さんは、今まで通り各町会や公民館・各団体の活動に主体的に参加していただきたいと思えます。その中でお互いを知ることができ、結びつきや広がり創られていくと考えます。まずは「自分で動いてみる、人の足を引っぱらない」スタイルで活動に参加したらどうでしょうか。

地に足がついた「まちづくり協議会」とは言い難いですが、足を踏み出したばかりです。しっかりと歩みができるようになるには、地区の住民の皆さんの手が必要です。一人ひとりの小さな力が集まって大きな力に、一人ひとりの小さな輪が集まって大きな輪になり、一人ひとりの小さな行いが集まれば大きな動きに、一人ひとりの小さな夢が集まって大きな夢となります。

先人が築き受け継がれてきた我が郷土を、「人と自然が調和する住みよい」波田地区

を拓くため、私たちが一丸となつて手を携え課題解決を図り「まほろばのまち」を創り出そうではありませんか。波田まちづくり協議会準備会

会長 関 通喜

町会連合会
として
まちづくり
町会連合会長

川手 弘行

平成22年3月31日に松本市と合併以来4年が過ぎました。今まで地域のことは行政まかせ人まかせで、のほほんど過ごしてきた私ですが、昨年度から町会連合会の立場から、自分でも「まちづくり」にかかわるようになり、その熱気に圧倒されました。

バス運行協議会では移動手段のない皆さんのため、地域バスをどう運行したらよいか真剣に討議し、水輪花火大会では、皆さんにどう楽しんでもらえるか、何回も会議を重ね実施することができました。現在、まちづくり準備会が協議会設立に向けて頑張っております。

合併5年目となる本年は、ますます自分達の地域は自

分達で作りに上げていかなくはならなくなりませぬ。

一人ひとりの力は小さいですが、波田地区27町会力を合わせ、住みよい地域づくりに努めて参りたいと存じます。

H26年度人事異動による
波田公民館職員体制について

公民館長 百瀬 眞治
館長補佐 牛丸 公文
(波田支所長補佐と兼務)

主任 山本 哲仁
嘱託職員 今溝 由佳
臨時職員 忠地 大輔
以上の体制で公民館業務を運営します。宜しくお願い致します。

所感「公民館に異動して」

公民館主事 山本 哲仁
本年4月の人事異動で波田公民館に勤務することになりました。生涯学習の業務に携わるのは初めてで、毎日慌ただしい日々を過ごしています。

公民館業務は、講座や会議、委員会など本当に多岐にわたっており、想像を超える業務の多さです。

地域や職員の皆さんに教えていただきながら、少しでも波田地区の発展に寄与したいと思っておりますので、ご協力お願いします。

平成26年度

町内公民館長会 会長・公民館専門委員会・各委員

が決まりました

1年間よろしくお願ひします

町内公民館長会
会長



柿出 謙二
(20区)

この度、伝統と実績のある波田地区町内公民館長会の平成26年度の会長職を己の非力さも顧みず仰せつかりました20区の柿出です。

松本市との合併以来4年を経過した今、市民の一体感について問われています。その中で、多様性の中での独自性を模索しつつ住民の皆さんの実生活に即した公民館活動

文化委員会
委員長



能田 徳之
(10区)

平成26年度波田地区の文化委員長を仰せつかりました10区町会の能田です。

昨年は、ふれあいコンサートと落語会の2つのイベントの運営に携わり、多くの住民の方に会場まで足を運んでいただきました。その際に感想等をいただく中で「公民館の文化事業が根付き始めているな」ということ

を通じ、その一翼を担えればと思います。自分達の地域の歴史、文化、先人の思い、それに伴う活動をすることはもちろん、他地域のことも学び、価値観、実践の方法も理解していく中で継承するべきは継承し、改めるべきは改め、新しい公民館を創っていききたいと思ひます。住民の皆さんのご意見・ご要望をお寄せいただき、公民館活動に取り組んでいきたいと思ひます。なにかと慣れない点もあるかと思ひますが、宜しくお願ひします。

を实感いたしました。これも昨年度まで委員や委員長を務められた先輩方のご苦勞の賜物と思つておりますし、その活動を支えている住民の皆様のおかげと感謝しております。そんな中での委員長就任に大変身の引き締まる思ひです。

そして、1年間の任期は長いようで短いです。その1年間で文化事業が少しでもレベルアップしたと住民の皆様に言つていただけるよう、公民館職員や各委員の方々と協力して努めていきたいと思ひます。

体育委員会
委員長



降幡 寛登
(4区)

今年度波田地区の体育委員長を仰せつかることになりました4区の降幡です。波田地区体育事業の推進に際し、微力な私ではあります。が、一杯頑張りますので、皆様の御指導と御協力をお願ひします。

体育委員会の主幹事業である町内公民館対抗球技大会の種目や開催方法が、時代の流れに合わなくなつて来ているのか、

館報編集委員会
委員長



丸山 道夫
(7区)

今年度、館報編集委員会の委員長を仰せつかりました。松本市と合併してから、松本市と合併してからは、編集委員の皆さんが、ほとんどの作業を担うようになりました。

4月15日の公民館報打ち合わせ会議で、年6回の発行と、各区で都合の良い月を選択して、その月の担当を決めました。昨年度発行されました公民館報を読ませて頂きました。主な記事を掲載

参加公民館、参加者共に減少しているのが現状です。これからの体育事業の在り方を、色々な意見や考え方を検討し、波田地区体育協会との連携をより深めて、地区内より多くの皆様の親睦と健康推進に役立ち、楽しく参加していただける事業へと変革していかなくてはならないと思ひます。

従来在り方を良い方向に改善しながら、多くの皆様の参加ができる事業になればと思ひますので、どうかよろしくお願ひいたします。



循環バスの運行準備について、子安様慰霊祭、町内公民館対抗野球大会、特産物のカーネーション、波田さいさい祭、波田文化祭の写真、第1回まちづくり講座、町内公民館対抗スポーツ大会、パラリンピック出場など、写真と記事が満載で、興味があります。館報編集委員は、各区から選ばれた27人で構成されており、新任の編集委員は12名、昨年度からの継続委員が15名で構成されています。共に地域の活性化につながる公民館報を作り上げられたらと思ひます。



私はビニールハウスで花を栽培して生計を立てている園芸農家です。少し前のことになりましたが、我が家にとつては重大ニュースでしたので書かせて頂きます。それは今年2月の大雪のことです。関東甲信越地方に2週続けて大きな降雪があり、ハウスの倒壊やビニールの破損等、多大なる被害が発生しました。被災した皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

2回目の大雪の日、私は午後3時頃まで会議があり家に帰れません。帰つてすぐにハウスの中に暖房を入れて、何棟もあるハウスの周りを、何回もラッセルし雪を踏み固めて、ハウスの屋根の雪を落としました。それが夜中まで続き、やつと雪が小降りになったので家に戻りました。しかし、次の朝起きてみると雪がざんざん降っていたので、ハウスがやられたと思ひ、慌ててハウスの見回りに行き、またラッセルと雪下ろしを繰り返しました。被害もなくほっとしたものです。大雪から1週間程、雪かき等に追われて時が止まったかの様でしたが、助けられたり助けたり、皆で協力し合った清々しい1週間でした。これが、まほろば波田の精神なのでしょう。